はいこんちょ。

松之山自治振興会広報紙
Vol. 58
2020年7月10日発行

新しい日常の中で 活気が戻り始めた地域観光

温泉街が長い眠りからようやく目覚めました。コロナ禍以前に戻るにはまだまだ時間がかかりそうですが、浴衣姿のお客さんも見られ、久しぶりに温泉街らしい活気が感じられました。効能たっぷりな松之山温泉で、まったりとしたひとときをお過ごし下さい。

アウトドアは新しい生活様式に合ったレジャーとして見直され、大厳寺キャンプ場も休日は申し込みに応じきれないという事です。

過密を避けていることで、思いっきり自然を堪能できます。キャンプをしない人も是非遊びにお出かけ下さい。（希望館で食事可能）

「まつのやま学園」は地域で守る

地域外からの入学者を増加するための新たな取り組みが始まりました。→2ページへ

少子化に伴う市内小中学校の再編計画案が示される中、九年制の小中一貫校で学区を持たないという特殊性を持った「まつのやま学園」の今後が注目されています。

学校は地域で守るという基本的方針に立ち、今年度「地域支援教育コーディネーター」に久保田智恵美氏を迎え活動を開始しました。地域の理解と協力があって進展する取り組みになります。

詳しくは次ページをごらんください。

松之山を元気にしたい！

No. 7

今年５月より松之山で新しい仕事を授けていただきました。住民票を十日町市へ移動し、名実ともに松之山地区民となり嬉しく思います。

これまで培ったノウハウを基に学校教育の発展と地域づくりを十日町市民・地域住民目線で尽力します。

「まつのやま学園」は地域で守る

ミッション型地域協力隊
地域支援教育コーディネーター
久保田　智恵美

学校は「子どもたちにとって魅力のある学校」「保護者にとって子どもを通わせたい学校」「地域住民にとって地域づくりに寄与する学校」でありたいものです。多くの卒業生の皆さんや地域住民と教職員の創意と英知によって誕生した「小中一貫校まつのやま学園」は、この３つの学校のあるべき姿を子どもたちの生き生きとした姿で現実のものにしています。

まつのやま学園は、「小規模特認校」です。この特認校には、幾つかの種類がありますが、通学区域に関係なく当該市（区）町村のどこからでも就学を認めるというものです。

このようなまつのやま学園の特認制度を生かし、学園の永劫未来存続を願い「雪里留学」の構想と準備、実現が、私に課せられた三年間の主なミッションです。小規模特認校は全国に四九二校（二〇一八年度）あります。その教育的意義としては、

①小規模校が閉校にならず地域に存続することにより、小規模・少人数学級での豊かな学びの機会を校区の子どもたちに提供できる。

②特認児童生徒が入学・転学することにより、小規模校・少人数学級でありながら、かつ集団として「最低規模」を確保することができる。

③学園コミュニティが確固としたものとなり、地域住民・保護者相互の交流の場が確保され学校づくりと地域づくりの融合が図れる。

④制度の存続・発展のために地域資源（人・自然・スポーツ・歴史・文化・工芸・産業等）の活用をめざした目的意識的、継続的な共同の取り組により児童生徒の豊かな学びと成長を図ることができる。

⑤中規模以上の学校で「不適応」を起こしていた、あるいは生き生きとした学校生活を送ることができていなかった児童生徒が特認制度を利用することによって自己肯定感を高め、学力だけでなく人間的にも成長を遂げることが期待できる。

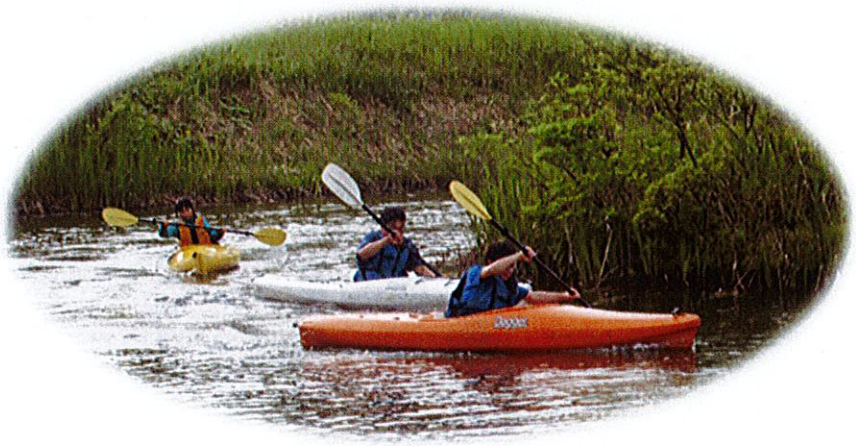
⑥特認利用者の増加とともに、地域おこしの視点から移住促進に取り組むためにも学校の存在は重要な条件となる、などがあげられます。

平成の時代に二十年間に渡って運営された山村留学は、そのステージを地域としていましたが、雪里留学のステージはまつのやま学園となります。

雪里留学を実現するための要件は多々ありますが、現在のまつのやま学園の経営・運営により既にそのほとんどが可能になっています。残る課題は「通学手段や児童生徒の受け入れ施設」「多様な転入学の手段」「教育課題についての地域住民・教職員の合意と力量形成」です。

残る課題解決に向けて「学校づくりは地域づくり、地域づくりは学校づくり」の理念の下、まつのやま学園が、集う子どもたちや地域の皆様にとって希望の地となるよう心を尽くして参ります。一年目は、他県の先進校などの視察や研究を通して、松之山地域ならではの留学構想をまとめたいと考えています。

「雪里留学」を実現させるためには、地域の皆様の創意と熱意が不可欠です。これから様々な機会に情報を発信していきますので、ご指導とご支援をよろしくお願いいたします。



今年から新設された「アウトドア部」の活動状況。
他に「自然科学部会」も新設されました。

県立松代病院の「県営存続」を要望する署名活動報告

県立松代病院の存続は、地域医療の要として地域をあげて要望してきましたが、先般県から示された存続条件は、県営から市営に移管するという内容でした。県営存続を原則としてきた地域・市にとって大きな衝撃となりました。

これを受け、松代地域振興会と松之山自治振興会が中心となり、周辺地域の旧大島村、旧高柳町、市内仙田地区で署名活動を行うこととし、松之山では六月十六日の理事会承認後、集落長を通じて全世帯対象として展開しました。結果は表のとおりです。なお松代では九七二世帯、八一、五%でした。

今後周辺地域の集計が終わり次第、市・県議と調整を図り、県に提出することになります。皆様のご協力に感謝申し上げます。

地区別	世帯数	回収	回収率%
松之山地区	303	250	82.5
三省地区	53	53	100.0
松里地区	186	176	94.6
布川地区	97	91	93.8
浦田地区	120	116	96.7
全　　体	759	686	90.4

◇人口の署名割合（全体）85.8%
署名数 1,584 名/人口 1,846 人

※6/30 締め切り・全集落より回収済み

県教委の松之山分校募集停止表明に対する取り組み

三年後の令和五年度募集停止という突然の県教委の公表は、松高存続に力を尽くしてきた関係者に大きなショックを与えました。松高支援連絡会では七月三日に関係者を集めた対策会議を開催し、今後の対応を検討しました。

今回県が公表した再編の中にあった津南中等教育学校と佐渡中等教育学校は地元からの強い要望により、条件付きながら今回は撤回されました。

松之山分校は、これまでも多方面にわたる存続活動を地元と分校と一体となって進めてきており、定員には満たないものの確実な成果をあげています。

支援連絡会では、県に対し松之山分校の果たしてきた重要性を説き、存続を強く要望していきます。

3つの自主防災組織に、AEDの管理費を助成します

今年度現在で、専用のAEDを良好な状態で継続管理している自主防災組織は、松之山地域では4組織あります。

そのうち今年度は兎口自主防災会が消耗品（電極パッドとバッテリー）交換、湯山集落自主防災会と松之山温泉防災組織が本体更新に取り組みます。

なお地域や集落でのイベント開催時には自治振興会所有のAEDを貸し出すことができますのでご相談ください。

自治振興会所有のAEDは諸団体が企画するイベントに貸し出し可能です！

松之山まちづくり応援寄付金をいただきました。【R2.4～6/5まで】
※コロナ禍対応として松山商工会に支援金を交付しました。

「松之山応援寄付金」は、とおかまち応援寄付金（ふるさと納税制度）を活用した松之山独自の基金で、県内外の松之山を愛してくださる多くの皆様からのご厚意です。自治振興会ではこのお金を特別会計で管理し、地域の活性化対策に活用させていただいています。今回はコロナ禍で困っている地域業者への支援金として、いただいた寄付金の一部を商工会に交付しました。

お名前（順不同）	寄付金額	お名前（順不同）	寄付金額
座間市：高橋秀夫様	70,000円	多摩市：村山菊治様	10,000円
羽生市：那須博子様	2,000円	船橋市：藤井美代子様	5,000円
福生市：久保田正敏様	20,000円	草加市：保坂英治様	10,000円
上越市：中島徹様	10,000円	江東区：鈴木ユキ様	10,000円
箱根町：武藤静江様	3,000円	葛飾区：志賀勝司様	5,000円
倉敷市：佐伯マス様	5,000円	川口市：樋口五郎様	30,000円
新潟市：阿部みき子様	10,000円	座間市：重野スギ様	20,000円
船橋市：村山富雄様	50,000円	草加市：嶋田朋裕様	10,000円
目黒区：津端義雄様	10,000円	新潟市：田中秀次様	10,000円
名古屋市：村山重信様	3,000円	市川市：重野一雄様	5,000円
茅ケ崎市：岡村令子様	10,000円	江戸川区：涌井タマ様	10,000円
蓮田市：和久井伸一様	20,000円	川口市：関口一様	50,000円

いつもふるさと松之山を想っていただきありがとうございます。
ご支援に厚く御礼申し上げます。

令和２年度集落安心づくり事業について

昨年取り組んだ団体の代表者あてに、先般今年度事業の案内をお届けしました。地域内の安心づくり事業にご活用ください。なお昨年もお知らせしましたが、新たに取り組んでみたいという集落・地域がございましたら、7月末までに事務局にお申し出ください。

令和２年度敬老会事業について

今年度の事業案内を、先般各実施団体の代表者あてにお届けしました。今年も松之山全地域でそれぞれの企画で開催される予定です。コロナ禍の影響でイベント開催が面倒になっていますが、やり方を工夫して楽しい敬老会になるようご協力をお願いします。

◇編集後記◇

□7月に入り県外交流の制限はなくなりましたが、感染者の数がなかなか減少しません。3密の回避は思っていた以上に高いハードルで、春以降のイベントは軒並み中止となりました。何もしないことが普通になってしまいそうで危うく感じています。モチベーションが下がると免疫も下がります。みなさん、ボーッとしているとチコちゃんに叱られますよ！

K,Nakajima

松之山自治振興会　事務局　https://www.facebook.com/hai.koncho

〒942-1406　新潟県十日町市松之山1597-2（松之山支所　地域振興課内）

☎:025-596-3131　fax:025-596-3515　E-mail: m_jichishinkoukai@yahoo.co.jp

【松之山の人口　6月末】総人口 1,839人（男877人　女962人）　世帯数：820世帯

【注】今回のデータは3月末です。（総人口　前月比：-7人　　世帯数　前月比：-6）